

カウンセリングサービスの役割

学生相談は、高等教育での様々な活動の融合と、教育環境での援助職の活動の統合を、代表しているものである(Dean & Meadows, 1995)。しかし、急速な科学技術の進歩により、大学の環境は、バーチャルな世界を含みつつ、物理的な世界をも越えて変化してきた。高等教育の環境の特質と様式や、それらが学生におよぼす影響は、学生相談のカウンセラーにとって重要なツールである。Steenbarger(1990)は、学生相談は、創造的なアウトリーチやキャンパス内でのサポートの歴史を作り出してきた、発展的な枠組みの良い例である、と述べている。学生相談は、その文脈の中で、それに影響を及ぼしてきた分野の発展とモデルの探究によって最もよく例証される。高等教育機関における学生に対するカウンセリングサービスの提供は、常に変わりつつある環境の中で、クライアントに徐々に効果的に応えてきつつある。

学生相談の役割と機能は、歴史的に、外的・内的要因の両方に応じて変化してきた。社会的必要性、政治的環境、国家経済、常に変化する人口統計などすべてが、学生相談が応えるべき変化に対して影響を及ぼしている。また、学内環境内での独特な内的要因に応じて、変化は起こっている(例えば、健康相談併設のカウンセリングセンターの場所 vs. 就職相談や就学相談とカウンセリングセンターを併設するオフィス)。その結果、カウンセリングサービスの幅や深さは、これらの交わりあった影響を反映している。DavisとHumphrey(2000)の幅広い調査は、学生相談の役割の歴史とサービス提供のモデル、高等教育での変化する学生数、未来への含みの徹底的な再調査を提供した。これらの要因に効果的に応じることはカウンセリングサービスにとって重要なことである。私たちの社会における急速な技術や文化の変化と共に、援助職の一部としてのカウンセリング職は、高等教育においてクライアントの常に変化するニーズに見合うように、実践の基準に重点を置いてきた。

豊かな歴史の結果、学生相談プログラムのサービスの提供は、3400 以上のアメリカでの高等教育の認定施設にまたがり広範囲にわたって広がっている。全体として、学生相談は、ほとんどの就職、メンタルヘル

ス、そしてスチューデント・パーソネルのモデルのカウンセリングを反映している(Oetting, et al., 1970; Davis and Humphrey, 2000)。Stone と Archer (1990) は次世紀への高い質のサービスを保証するために、カウンセリング職に向き合うチャレンジや、学生相談におけるニーズを効率的に扱うための洗練された具体的な戦略を強調している。

現在におけるチャレンジは、以下のような外部要因によって創り出されている; 学生の変わりつつある民族的、人種的、国家的、経験上の背景; 学生の心理、健康、安全、経済的ニーズの増加; 高等教育における資源への競争の増加; アカウンタビリティを高めること; 新しくかつ変わりつつあるクライアントのプライバシーに関する制限や身体的健康とメンタルヘルスケアの改善(Stone & Archer, 1990; Gallagher & Zhang, 2002; Magoon, 2002)。さらに、アメリカ同時多発テロの余波や他の世界的なトラウマ的な出来事は、予期不能な要因に速やかに対応できるようになるための学生相談プログラムの必要性を強調している。大学生が呈している問題の深刻さの程度は、昔から言われている適応に関する問題や、1950年代から1980年代前半にカウンセリングセンターのリサーチでよく調べられた個性化の問題などよりも、はるかに深刻である。(Pledge, et al., 1998; Hepper, et al., 1994)。リサーチによれば、1990年代後半から21世紀初めにかけて、呈されている問題はある意味安定して深刻である一方で、問題の複雑さのほうは増加し続けている(Benton et al., 2003; Cornish et al., 2000; Pledge et al., 1998)。クライアントが抱える問題の深刻さや複雑さが拡大するにつれて、学生相談に携わる専門家たちが、医師、地域のメンタルヘルスワーカー、他の学部、他のヘルスケアの専門家たちと協働できるような体制を整えておくことがますます重要になる。外部の評価機関による成果の評価に焦点がだんだん当てられてきた結果、学生相談プログラムの効果を証明できることをより一層意図するように求められている。(Dean & Meadows, 1995)。

これらのチャレンジに基づいて、Stone と Archer(1990)は、カウンセリングセンターに求められる

必要性を、以下のように強調した(A)(カウンセリングセンターが、サービスを提供する対象となる)クライアントが抱える問題の種類と、深刻さの程度の境界線を明確に定義する (B)深刻なクライアントが、効率的に適切な地域資源を利用できるように広範なリファーマウトリーチサービスを開発し見つける。それと同時に、学生相談のカウンセラーは自分たちの仕事にとって不可欠な、発達の、予防的、コンサルティング的サービスを維持するように努力している。Stone と Archer(1990)が言及するように、制限のある中で働くことや要求と資源の間のバランスを取るようになる考えは、学生相談サービスにとって重要である。Archer と Cooper (1998)は、学生が、心理的健康を維持することや、維持するための個人的成長を援助することで得られるポジティブな成果を、各機関に対して示すことが重要である、と認めている。

Humphrey, Kitchen, Patrick (2002)は、サービス提供の付加的オプションとして、カウンセリングサービスが相互的でインターネットを使用した技術を拡大し、取り入れることを奨励するためにもう一步踏み込んでいる。

学生相談は正規の大学プログラムを補う活動を通して、学生の個人的・教育的成功を促進するために、他の学生サポートサービスと協働する。学生相談カウンセラーは、大学の性質や関わる学生に依って、治療的、予防的、危機に対する、アウトリーチ的、コンサルティング的サービスを提供する。カウンセリングサービスは、学生人口の変遷と共に変化・適合してきた。例えば、リサーチの実施、トレーニングやスーパービジョンの提供、専門家としての適性の維持、実践における倫理基準の維持、積極的な専門家組織や学術的活動への参加、などを通して、専門家としての成長に対して強くコミットすることは、変わりつつある社会的問題や学生の複雑な発達の、心理社会的、メンタルヘルスの悩み事に対する十分な対応をするための、触媒の働きをするものである。

特に学生支援の機能が十分に調整されうまく機能しているときは、大学に出席することによって、意味のある学生の成長や発達を促すような独特な環境や刺激(ストレス)が創り出される。学生が変化を経験するにつれ、彼らは個人的な問題を扱い、チャレンジを通して取り組み、成長と変化を扱う必要がある。世界的

危機の衝撃、悲劇的な天災、経済の衰退が交じり合う今日の社会を特徴付ける急速な変化は、学生の個人的・心理的問題を悪化させる。(Archer & Cooper, 1998); Davis & Humphrey, 2000)。しかしながら、カウンセリングサービスが 21 世紀の医学的、技術的、心理学的進歩を包含し役立たせるにつれ、学生の高等教育の利用や高等教育での成功は最大限に引き出される。カウンセリングサービスの存在と、それが利用可能であるということは、教育や人間の成長にとって、重要なサポートとなる。

以下に続く CAS カウンセリングサービス基準とガイドラインは、学生相談の質を発展させ、高め、評価し、判断するための基準を学生相談カウンセラーに提供する。

References, Readings, and Resources

- Archer, J., Jr., & Cooper, S. (1998). *Counseling and Mental health services on campus : A handbook of contemporary practices and challenges*. San Francisco: Jossey-Bass.
- Benton, S., Robertson, J., Tseng, W., Newton, F., & Benton, S. (2003). Changes in counseling center client problems across 13 years, *Professional Psychology : Research and Practice*, 34, 66-72.
- Cornish, J., Kominars, K., Riva, M., McIntosh, S., & Henderson, M. (2000) . Perceived distress in university counseling center clients across a six-year Period. *Journal of College Student Development*, 41, 104-109.
- Dean, L. A., & Meadows, M. E. (1995). College counseling: Union and intersection. *Journal of Counseling Development*, 74.139-142.
- Davis, D., & Humphrey, K. (2000). *College counseling: Issues and strategies for a new millennium*. Alexandria, VA: American Counseling Association.
- Gallagher, R. P., & Zhang, B. (2002). *National survey of counseling center directors 2002*. Alexandria, VA: International Association of Counseling Services.
- Heppner, P. Kivlighan, D., Good, G., Roehlke Hills, H., & Ashby, J. (1994). Presenting problems of University counseling Center Clients: A snapshot and multivariate classification scheme. *Journal of Counseling*

Psychology, 41, 315–324.

Humphrey, K., Kitchens, H., & Patrick. (2000). Trends in college counseling in the 21st century. In D. Davis & K. Humphrey. (Eds.) *College Counseling: issues and strategies for a new millennium* (pp.289–305). Alexandria, VA: American Counseling Association.

Magoon, T. (2002) . *College and university Counseling center directors'2001–2002 data bank*. College Park, MD: University of Maryland.

Pledge, D., Lapan, R., Heppner, P., Kivlighan, and Roehlke, H.(1998). Stability and severity of presenting problems at university counseling center: A six year analysis. *Professional Psychology: Research and practice*,29,386–389.

Oetting, E. R., Ivey, A. E., & Weigel, R. G.(1970) *The college and university counseling center* (ACPA Monograph No.11). Washington , DC: American Personnel and Guidance Association.

Sharkin. B.(1997). Increasing severity of presenting problems in college counseling centers: A closer look. *Journal or Counseling and Development*,75,275–281 .

Steenbarger, B. N. (1990). Toward a developmental understanding of the counseling specialty. *Journal of Counseling and Development*,68,435–437.

Stone, G. L., &Archer, J., Jr. (1990). College and university counseling centers in the 1990s: Challenges and limits. *The Counseling Psychologist*,18,539–607.

American College Counseling Association (ACCA):

<http://www.collegecounseling.org>

American College Personnel Association(ACPA):

<http://myacpa.org> ; Commission VII:Counseling &

Psychological Services:

<http://www.acpa,nche.edu/comms/comm07/com7hmpg.htm/>

American Counseling Association (ACA)

<http://www.counseling.org>

American Psychological Association (APA) :

<http://www.apa.org/and Division17, Counseling Psychology>

<http://www.apa.org/about/division/div17.html>

Association of Counseling Center Training Agents

(ACCTA) : <http://accta,ucsc.edu/>

Association of Counselor Education and Supervision

(ACES) : <http://www.acesonline.net/>

Association for the Coordination of Counseling Center Clinical Services (ACCCCS) :

<http://www.ksu.edu/counseling/ACCCCS/index.htm>

Association of Psychology Postdoctoral and Internship Centers (APPIC) : <http://www.appic.org/index.html>

Association for University and College Counseling Center Directors (AUCCCD) :<http://www.aucccd.org>

Clearinghouse for Structured/Thematic Groups & Innovative Programs , University of Texas at Austin: <http://www.utexas.edu/student/cmhc/clearinghouse/index.html>

Counseling Center Village:

<http://ub-counseling.buffalo.edu/ccv.html>

International Association of Counseling Services

(IACS) :An Accreditation Association:

<http://www.iacsinc.org/>

Resources for College Counselors:

<http://www.tarleton.edu/~counseling/coresour/cores.htm>

Workshop Central:

<http://ub-counseling.buffalo.edu/wc.html>

カウンセリングサービス

CAS 基準とガイドライン

COUNSELING SERVICES CAS STANDARDS and GUIDELINES

Part 1. ミッション
 カウンセリングサービスは、学生の学習と成長を支援し、彼らの学業的、職業的、個人的な成功を促進し、彼らの全体的な健康と幸福を確保することを目指す。このサービスは、学生が学業、職業、個人的な目標を達成し、自己実現を遂げるのを支援し、彼らの人生の質を向上させることを目指す。

CS の ミッションは、学生の学業的、職業的、個人的な成功を促進し、彼らの全体的な健康と幸福を確保することを目指す。このサービスは、学生が学業、職業、個人的な目標を達成し、自己実現を遂げるのを支援し、彼らの人生の質を向上させることを目指す。

CS の ミッションは、学生の学業的、職業的、個人的な成功を促進し、彼らの全体的な健康と幸福を確保することを目指す。このサービスは、学生が学業、職業、個人的な目標を達成し、自己実現を遂げるのを支援し、彼らの人生の質を向上させることを目指す。

CS の ミッションは、学生の学業的、職業的、個人的な成功を促進し、彼らの全体的な健康と幸福を確保することを目指す。このサービスは、学生が学業、職業、個人的な目標を達成し、自己実現を遂げるのを支援し、彼らの人生の質を向上させることを目指す。

CS の ミッションは、学生の学業的、職業的、個人的な成功を促進し、彼らの全体的な健康と幸福を確保することを目指す。このサービスは、学生が学業、職業、個人的な目標を達成し、自己実現を遂げるのを支援し、彼らの人生の質を向上させることを目指す。

に合致する学生が学業、職業、個人的な成功を達成し、自己実現を遂げるのを支援し、彼らの人生の質を向上させることを目指す。

CS は、学生の学業的、職業的、個人的な成功を促進し、彼らの全体的な健康と幸福を確保することを目指す。このサービスは、学生が学業、職業、個人的な目標を達成し、自己実現を遂げるのを支援し、彼らの人生の質を向上させることを目指す。

CS の ミッションは、学生の学業的、職業的、個人的な成功を促進し、彼らの全体的な健康と幸福を確保することを目指す。このサービスは、学生が学業、職業、個人的な目標を達成し、自己実現を遂げるのを支援し、彼らの人生の質を向上させることを目指す。

CS の ミッションは、学生の学業的、職業的、個人的な成功を促進し、彼らの全体的な健康と幸福を確保することを目指す。このサービスは、学生が学業、職業、個人的な目標を達成し、自己実現を遂げるのを支援し、彼らの人生の質を向上させることを目指す。

CS の ミッションは、学生の学業的、職業的、個人的な成功を促進し、彼らの全体的な健康と幸福を確保することを目指す。このサービスは、学生が学業、職業、個人的な目標を達成し、自己実現を遂げるのを支援し、彼らの人生の質を向上させることを目指す。

CS の ミッションは、学生の学業的、職業的、個人的な成功を促進し、彼らの全体的な健康と幸福を確保することを目指す。このサービスは、学生が学業、職業、個人的な目標を達成し、自己実現を遂げるのを支援し、彼らの人生の質を向上させることを目指す。

基礎に価値観に基づいて、教育的目標を定める。個人の成長を促すこと、自己の知識を深めること、他者の幸福を願うこと、社会の発展に貢献すること、など、多岐にわたる。また、目標は具体的で測定可能であることが望ましい。例えば、「読書の量を増やす」「運動の時間を増やす」など、数値で表せる目標を設定する。さらに、目標は達成可能な範囲で設定し、定期的な進捗確認を行うことが重要である。

健康促進の観点から、運動習慣の確立や健康的な生活習慣の形成を目指す。具体的には、毎日30分以上の有酸素運動を行うことや、野菜や果物を積極的に摂取することなどが挙げられる。また、十分な睡眠とストレス管理も健康維持に不可欠である。

向上の観点から、自己の能力を伸ばし、新たなことに挑戦することを奨励する。これは、職業だけでなく、趣味や学業においても同様である。目標設定を通じて、自己の成長を促し、達成感を得ることで、自信とやる気を高めることが期待される。

評価の観点から、個人の成長や達成度を客観的に評価する必要がある。これは、定期的なテストや評価、自己評価、他者からのフィードバックなどを通じて行われる。評価の結果に基づいて、今後の学習や行動の方向性を決定し、目標達成に向けたサポートを行うことが求められる。

価値観の観点から、個人の価値観や信念が目標設定と達成に大きな影響を与える。自己の価値観を明確にし、それに基づいて目標を設定することで、達成へのモチベーションを高め、持続的な努力が可能となる。また、他者の価値観や期待も考慮し、社会的責任を果たすための目標設定も重要である。

支援するべき項目を明確にし、優先順位を付ける。例えば、読書の習慣を身につけることや、定期的な運動を行うことなど、具体的な目標を設定し、達成するためのサポートを提供する。また、進捗確認や励ましを行うことで、モチベーションを維持し、目標達成をサポートする。

Part 2. 学生の学習と発達成果の領域。これは、学生が学習を通じて達成するべき成果や能力を指す。具体的には、知識の習得、スキルの向上、自己管理能力の育成などが挙げられる。また、学習の過程で身につけた価値観や態度も重要な成果として捉えられる。教育者は、学生の学習成果を適切に評価し、その成長を促すためのサポートを提供する必要がある。

CS（キャリアスキル）の観点から、学生が将来の職業生活で必要とするスキルを身につけることが求められる。これは、専門知識だけでなく、コミュニケーション能力、問題解決能力、チームワーク能力など、汎用的なスキルも含まれる。教育者は、学生のキャリア開発をサポートし、その成長を促すためのサポートを提供する必要がある。

学生の学習と発達成果の領域。これは、学生が学習を通じて達成するべき成果や能力を指す。具体的には、知識の習得、スキルの向上、自己管理能力の育成などが挙げられる。また、学習の過程で身につけた価値観や態度も重要な成果として捉えられる。教育者は、学生の学習成果を適切に評価し、その成長を促すためのサポートを提供する必要がある。

と者他者他者他者
者他者他者他者他者
者他者他者他者他者
者他者他者他者他者
者他者他者他者他者
者他者他者他者他者
者他者他者他者他者
者他者他者他者他者
者他者他者他者他者
者他者他者他者他者

力明好確解
能て明理キ
、択つをた
ル選と徴界し
キアに特世映
スリ分のの反る
、ヤ自の境事をて
観キ；環境仕知立
択例値、る環；認を
選の価てす場る己標
ア標、し現職す自目
リ意味断表い現；の
ヤ成興判にし表るア
キ達を確まにすり

お維くた他無議や任
的をゆつや、異者責る
会範て従人当に他るれ
社規しに他不切がす入
、や正れ；、適動対け
の準修そる平て行に受
一基、す公しの響、
イるせてり不対分影し
例テけさしたのに自す識
任のニお展解しプ動；ぼ認
責標ユに発理加一行る及て
的指ミ法、を參ルなえにい
会成コびしと、グ法唱境つ
社達よ持こりの作を環に

達の発達
ルの哲学；すいる一求
スのす理まにン；進扱
プの現を好ちめる促に
ッ表スやたプすを重
ッ例シにク的一識い丁
シの一確ミ目るル認あを
一標ダ明ナのえグをり果
ダ指一をイプ見；みわ結
一成リルダーにす弱かた
り達イプル目示やかた

(a)は (a) (b) (c) (d) (e)
一貫しに、(e)な一ば
貫違いで、要二れ
違違してが一のけ
基違に映ズイら
人集のニニみ
に性を特別コ感に
や知識の特別コ感に
学習や知識の特別コ感に
理論的特別コ感に
計いすり口個学ズな

果一にサ
効グをリ
有ンセ
ミッショ
のミッ
すた

を立率健す
動自動的対
行；；理に
的るす心
律す示；ng)
自能をる
な機力す-れ
切に能理れ
例適的管we
のに主すを(受
標的自能間せを
指化；機時幸任
立成文すてにや責
自達示的的康る

持価見を
維での者
、的者他
、相互他；
、築相；る
をとくえ
係僚築考る
関同を、わ
人例人や係さか
対の対人関間か
な標な友るくて
義指足；あよし
意成満るのを重
有達す値解尊

にル問きた体源以し
確へ；んしの資；新
明ルるシ定人なる、
をタす・決個ますをる
標ン合ルを、ざ用意す
目メ統力かにま活概用
的のをイ何めさをや適
育分識テ；たむ情報に
例教自意りるす含情境
の・；とクい出をなた環
長標的る識に用を察難しや
成指人す知決を見観複解況
的成個現の解グ意やら理状
知達表ス題ンリ験か前い

向の能力の向
に書えす明
に考りに
的率よた的
効；し話を効
つる話え考
かたりた考
し貫たいなる
の貫したいなる
の貫したいなる
指尾話に象現
成首にたる確
コ上達いたる確

確ルる割
、はおの
、築きた一
を築きた一
系人行的
体個人やリ
ル念；観ア
アの信る値ユ
ユの信る値ユ
チ標のす価チ
リ指分現のり解
ピ成自表プ理解
ス達に一スを

テといをプすに
イ分あ心イ論験
テ自り関タ反終
ン；わ・オにの
デるか興味切身
イすか興テ自
ア理解のな適自
の理の多者の自
解の身と多者の自
理の身と多者の自
の標自文化々；性
の標自文化々；性
性指分とうめる用多た
様成自一達求め乱；え
多達イはを深をる

協働成
達成指標の例

解には、環介生くう伝か集応
見一は、な学よよ、なな対
なダCSしう、りるは必要に
要一。明よたよすCSて必か
必りる説るま、進。れがや
たのきにせ。が。促る。細
せ上で生さる作用をあわズ
さ營が学上あ作を扱一きめ
映のこ境向き互とこきりニ
反学環をのるすあ別して、
を大すの質す境入に特対き
ス、供設のを環展介的たに
ンを提施境入と発に統っ団す

見口にて特等生一
CSをグ貢も別に
のCS、めパ門。準
訓練適

CSのリーダーは、以下のよう

直てし、通。発、個セ
、し通。開、族のコ
を通をい。家、域イ
スに係なり、領サ
ビー連らリ、係のや
一アのなキ、問題グ
サフとば、人問ン
のり、れ、対的り
下は、関け育、理セ
以た機な教、択心ン
、ま他し、選、ウ一
は、は供人業会力ピ
ス的た提個職社人ラ
ビ接まで、

で、助ウ一、的ス、リ
領域に：ピセルヤ人
領に（例：ラキキ個
なめ（例）コイプスや、
うた入（例）コイプスや、
よる介の対人育定、
のなさい、対シや思
下に、一、満足、シや思
的（例）コイプスや、
率グントを二なすの
以、率グントを二なすの
、率グントを二なすの
、率グントを二なすの

キ学をサ
すたテサ
御のルト
制生サ一
り学ンポ
たるコサ
しす的、
理と学定、
急の支
緊員職
や職
入教

プロ
開発
開業
支職
急の
緊員
や職
入教

Part 3. リーダーシップ
一は、非は成ウ一与レの設口れは、適切な選は責任を
効は、非は成ウ一与レの設口れは、適切な選は責任を
有は、非は成ウ一与レの設口れは、適切な選は責任を
一は、非は成ウ一与レの設口れは、適切な選は責任を

ダ功でツ管理一配ら一促め実まト
一成のミ管サ、なりを高な。や
リがもた、グ命ばCS達を効い育
な組なれにン任せのや効なら規
理的な要らめセ一なル習有スな
倫全に定ウ一与レの設口れは、
ダつ、常、成ウ一与レの設口れは、
一は、非は成ウ一与レの設口れは、

CSのリーダーは、以下のよう

りな類は互しりつ得バテにベ
セグがCS相にセかがンニ的る
ン署、にウン殊知識メユ極す
ウリ部場合切よウ特知フミ積
カセの場適る力、的タコつ利
アンスう、き。で。専門タ域か
リンパ扱き、き。で。専門タ域か
キヤン点を築、き。で。専門タ域か
、育キ題係ア、き。で。専門タ域か
、育キ題係ア、き。で。専門タ域か
、育キ題係ア、き。で。専門タ域か

例、他た的りくサとな、内アあは合やるをCSニ
ンど似協的てン必ら一イリき、た本訴役る生

ケサ問、口成き
機に、リ的のプ（ベ
のう、ン、門どの発す
長よ、ン専なら開持
成る。ジョンがフ維
的きいビシ切ヨなッを
門でな一適シシタム
専がらパテ、ッ供スラ
ととな一ント力提た、グ
育こばスゼースをま
教るれ、レポイス、プ。
的得けはプレデビムのも
続をなCSスチのーラ）あ
継会し一一題サグ長で

コニ方、ン、関開いは、もク・ていインお
のの一両て、ウ学は機ては、をレフしてダウンて
スでレのっ、カ理くたし、格イツとっ。カヨけ
ビ院トンも、心しれ得ク、資データもるでジ受
一学のヨを。は床もさ取ク、許。スヤをれ育ビを
サ大規ジ験い一臨、可をレ、免るでジ験ら教一）
グ、正ビ体なタ、育認号、デ、イ、やあ育一経め等パ後
ンは、一たらク学教、士、ス、スで教ネの求高一卒。
リ一とパけなレ理一で博るンキ等マ上く、ス、るタ
セタク一受ばイ心ラ域もあセベ高か以強はの前あく、ス、
ンクースにれデグセ領ででいる、一年が一グ卒でレ員同
ウレワ、切けのンン問低きういはバ3とタン士きイ教、
カイスグ適なCSリウ学最べのて一ン低こクリ博ベデや生
デーンをい、セカ連のる州ッタメ最るレセ（く、一学
ンカグるて、よ・理・一ネス・

タ、ター、バ、な、
ン、し、な、人、パ、験、ン、れ、な、
イ、攻、で、の、一、経、メ、さ、れ、
の、専、の、ら、ス、務、・、練、さ、
中、を、も、れ、び、実、フ、訓、督、
得、野、た、こ、よ、る、ッ、に、監、
取、分、つ、お、す、タ、分、
を、一、な、持、い、格、連、ス、十、ズ、い、
格、切、切、を、な、資、関、の、イ、な、
資、ti、適、験、ら、の、に、門、て、ば、
や、den、経、な、育、ン、専、つ、一、な、
位、は、な、ば、教、ヨ、つ、よ、パ、ば、
学、cre、切、れ、ジ、も、に、一、れ、
（一適けはビを一スけ
一、ない、い、と、テ、述、い、グ、
イスをらテ、タ、要、れ、助、談、ら、ン、記、づ、グ、
テ、グ、な、ン、に、ス、必、さ、援、相、な、ラ、務、基、ン、
ン、れ、ン、ば、ラ、合、る、を、グ、に、に、ば、ボ、職、に、ニ、フ、ら、
ラ、さ、ニ、れ、ボ、場、あ、け、ン、際、一、れ、び、な、ズ、一、ッ、な、
ボ、考、一、け、び、る、の、助、ニ、す、ザ、け、よ、確、一、レ、タ、ば、
び、選、れ、な、よ、す、格、の、一、下、イ、な、お、正、ニ、ト、ス、れ、
よくトれお一資一レをバた生でたスなけ
お深やさ生アにバト断一持学瞭れビ的
生意ズ価学フらんを判パを用明さ一続れ
学注イ評用リよメかの一法雇、価サ持さ
用、バ、雇、の、の、ら、ス、方、は、評、レ、び、供、
雇は一け。はどづるれるるいア、プよ提
アパ受いアつつすこすすない表たおを
一給も比とな
差、に、
非、な、生、デ、ス、る、ス、
・、し、学、モ、パ、ス、な、
的、施、割、ン、に、rs、
括、実、は、役、ヤ、か、ve、
包、を、CS、る、キ、豊、di、
、進、き、つ、を、
で、昇、い、で、か、一、な、し、
平、と、な、視、
公、用、ら、一、し、テ、多、雇、
、雇、な、同、供、二、を、
は、な、ば、に、提、ユ、に、フ、
CS、的、れ、易、を、ミ、め、ッ、
別、け、容、ル、コ、た、タ、な、
メ、実、ス、た、
・、覧、な、れ、な、持、ま、の、ヨ、
フ、一、的、け、的、を、。門、シ、め、
ッ、容、則、な、期、ム、い、専、ク、
タ、内、規、し、定、テ、な、や、一、
ス、務、
の、職、し、提、は、シ、な、ラ、や、
の、持、を、CS、の、ば、グ、ス、
べ、め、維、定、用、れ、ロ、ン、
す、た、
の、し、と、な、評、な、育、ア、
は、一、成、画、ら、フ、い、教、フ、
CS、バ、作、計、な、ッ、て、職、ン、
ン、を、行、ば、タ、ッ、現、カ、ッ、

ヨ責とけンにホおり専一るはにらん性
ジにれ受メ織サをセのイれン様がウ能
ビンそをフ組を置ンそテさ一同な力可
一かんツのれ措ウはニ励タとけたう
パタ号ヨタ家そ算カ一ユ奨ント受つな
一ン士ジ。ス門、予。バミがインをあこ
スイ博ビるグ専りなるンコ事やタンにお
のの、一あんなあうあめるる生スヨ験を
僚生合パでリ切でよでフす学シジ経能
同院場一きセ適きるきッ連加のアビと機
、学つスベン、べきベタ関参中職一態グ。
は大ものるウはずでうスにに習門パ状ンる
一やを等いカ一加トなグ性動実專一備りあ
バン任同てバ参一コン門活準ス準セが

サ利様テさ
、多ニヘス討
は数のユルビ檢
準者供ミタ一再
水學提コンサに。
置在ス域メ生的い
配、ビ地る学期な
のや一はきや定ら
フ要サたでス、な
ッ需、ま用ビらば
タの査内利一かれ
スス調學でサ点け
CSビ者、一スのな
一用性イル等れ

のれ資のらやのツフと職
へその下め接報タツグ・
生、一以認面情スタンの
学えバ、が；のやス二人
、加ンてとる関員、一個
はにメっこあ機教グレ、
間ス・従うで、ントン
時ビフに使要備チイ、ヨ
の一ッ容を重準一テグジ
フサタ内間がのサーンビ、
ッなス務時とトリミィ一達
タ的の職にこ一、のテパ
ス接れやうるホ新と一約
直ぞ格よれレ更フミス業
予入に一フ認

のポッに行るトス
るサッターをらす、会
す、持スジ能な関り機い水
行フを。口機ばにあるなの
遂ッ一いノ務れ用がれら量
をタバなく職け利知識らな事
命スンらテのな術知れば仕
使術メなはらが技な受れと
の技フば一れ格、的をけ置
そ、ッればそ資た法グな配
、なタケン、でま・ンての
は切スなメし上。的ニッフ
CS適ト一・練うい理一もッ
にてフ熟な倫レをタ

等様ス間ン
る高同ビ的メ
す、と一法・
供療題サるフ
提医問グイッ
を、的ンてタ
プス法リしスる
ッルるセ理、す
シへケン管て育
一ルおうをい教
ダタに力供つを
一ン育、提に一
リメ教にの題バ
ワ、メスグ、適な
フオンをい
ツコニ方て
タの一両つ
スでレのもの
グ院トンを。
ン学のヨ験い
リ大規ジ体な
セ、正ビたら
ンは、一けな
ウーとパ受ば
カバクーにれ
ン一ス切け
タは心ソスヤベ習
ス格床一ルシレ実
一資臨パヘ一院の
タの、&ルソ学き
ン限学グタ床大付
セ低理ンン臨、ズ
グ最心リメ、のイ
ンのグセ、グどバ
ンシッ
る学ど切認得のでジウはえ、ま資。ンと、ンお理るスムチシリ、法の
なでな適にをこがビカ一例学格、るメク論學ウに習いグカ一握セ、た、
(中つる号的はと一。バ(理資かあフ一理理力グ学てントサ把ン、シッ
ship)のもし域士たこパるン域心州るでッワ格病間ン、けリウリとウは、一
ship)況をで地修ます一あメ領、のいきタス人神化リ題うセアのりカ一、
ship)状グが、。かスでフ門グ)てベス一、精文セ問をン、近か。バ、
internship)育ンとでらる生にきッ專ンクつるグコトは多ン的グウは最るン、
internship)教リこ野かあを切ベタたり一もあンなした、ウ理ンカ一むしあメ、
internship)等セむ分関でル適るスしセワ格でリ切メま達力倫ニ。バ含をでフ、
internship)高ン積域機きキ、けグ扱ンル資能セ適ス学発、一るンをドきッジ、
internship)practicum/高ン積域機きキ、けグ扱ンル資能セ適ス学発、一るンをドきッジ、
practicum)な力験門れるでまをリのカシ地請ウはア心リン法トでフ一レクスノ発す州きウ
practicum)べ生のな可て現きヨン自ばソた格バ心異キセけ論ベタリにてンテ組関令る

にで 提供で 管よ キニカ報く ス利あ
 能き 適提き 持る がユの情お テをで
 機ベ 快をベ 維き スの関アを で所き
 るる 、所く をで ビト機リー プ場ベ
 れれ に場お どス ー一的ヤタ 一なる
 わさ 為合を なせ。サメ公キン ル当れ
 なン の待ア 料くるグプ、セ グ適さ
 こイ トなり 資アあんなッ合的ス は、に
 おザ ントエ 的にでリ口場業一。たのう
 てデ エー付 門ぐきせべむ職ソるま為よ
 っ。 イベ受 専すベンデ含やりあ、うる
 よせるライ、。は、すウアをグるで別行き
 にわきクラるるCSしにカリトロあき個を
 一合で プすあ 理う ャッタがベ ト用る

維準 はな

Part 8. 法的責任
 カウ (CS) のスタッフ・メンバーは、
 (各おけフサ対締州め機制な 者との実なと度て

責任に 係知。者、判例自秩法ら 役員及、おのり、
 関熱い。は、者、判例自秩法ら 役員及、おのり、
 をな一は、者、判例自秩法ら 役員及、おのり、
 憲、上お務方、い、償限情おCSの方け はれカッるれ
 ンセリン グサ ー ビス ー は、
 のびばメビてり府義のをなは賠制つを。険のな 機てにス受な
 自よれ・一しま政る関限らCSがをか踐い保上い 機てにス受な
 責任に 係知。者、判例自秩法ら 役員及、おのり、
 関熱い。は、者、判例自秩法ら 役員及、おのり、
 をな一は、者、判例自秩法ら 役員及、おのり、
 憲、上お務方、い、償限情おCSの方け はれカッるれ
 ンセリン グサ ー ビス ー は、
 のびばメビてり府義のをなは賠制つを。険のな 機てにス受な
 自よれ・一しま政る関限らCSがをか踐い保上い 機てにス受な

要務書、ポ
 のら義的秘サにな 員学、るば重
 ス的な果、ト分ら 業のじわれ慎
 ビば門効付、ス十な 従ス演関け、
 一れ専を受テがば 務ビをになでる
 サけるス、フれ 事一割トしので
 となよビな連ッけ うサ役ををいで
 ムいに一要関タな 会グな工定多き
 ラて家サ必一ス い 接ン要イ決がベ
 グった門たでジ務て 直リ重ラ志とる
 口合専い上口事れ にセにク意これ
 プ見。づうノのさ 生ン象ばないさ
 は求なにて一提い カのば備ら選

Part 6. 財務
 カウ (CS) は、
 (一資金らツおび使さCSし果

スゴなば、一おら決
 ビと切れは、二、くら
 ン適けの析れか 規定と費
 ンに、な 先 生分ど点 規
 グッめに、優先学的がう。るよ
 リンミたての優、括源いるけお
 リのる、予算目の部、でに責
 セ、行を。ン能・のべ機
 ン、行を。ン能・のべ機
 ン、行を。ン能・のべ機
 ン、行を。ン能・のべ機

Part 7. 施設、テクノロジー、
 カウ (CS) は、
 (一ルトクテク、的、供域なCS進体れCS、法るカンが提力ウ

をるな
 とすし
 物理的、
 防ス、
 フとイ
 はン

や示 ない。 況明る全な 状態す安し スス一、持 センタを保 クナニ録を アテモ記密。 のンで、機い 録メきてしな 記、続っ存ら 、況手よ保な は状たにでば CS 用れと態れ 利さこ伏け

倫、このの でたま ま が切 との関性こ生報上きしス入れ、求性適ば は定てに密る学情度となCS個さ針要急、れ 一規べ録機れ。た制た諾。にか方て緊はけ 巴るす記とらるいびれ承い特おのつた報な ンす、と一守あてよさるな、が関よつ情し メ関たンシとでれお可よらは性機に言た示 ・にれヨバリきま律許にな一全は律とれ開 フ踐らしイかべ合法て面はバ安い法、さに ツ実守一ラっすになっ書てンのるなき判断局。 タ床でケプし証録切よ、れメ者適切と判当い ス臨下ニ、が保記適にはさ・他、適ると係な CS のユて持を育、針外示フは時はれる関ら 理法ミし保と教は方以開ッたるたさあな

バをすなの方関べ ン人関わ人めにす メ、に従個進秘守 けるチ、な守遵 フけ一した的密も ッおサ知ま理機て タにリ熟。倫のい ス関たいのたつ CS 機しつら究一に のしつら究一に のそとな研究定る て、者定はる究規あ 全は験規てす研るで 一被るく対やすき

Part 13. アセリメン トサ と評 価 スン けられ び果ど 有用口 につけ 一かば 価ビメ ならよ成 かの使 プのなデ 者れ 評一ス わめおの 切をの りした 係け とサセ な定、 達い適 論そす 用れ関 な トサア こ、ル 発て、 法。証 使ら のい ングア は一 びしに 方い保 をめ 他い メンのお ゴびし になな を段 集び ンスリ 期を CS によ ため 性的な 性を 手 含ん ンセ 定期 評価 にお 満た 的ら 性 段 集び ンウ びら シ学 程定 的れ、 評ら 学 答い 力CS) によ びら シ学 程定 的れ、 評ら 学 答い (トれた 学をう 効しセ 十れ たら なら

機映の 映価 も、育反 評に スビま 的期 におけ 定期 一サお びの だも、 のサお びの だも、 自シの どの かの 自シの どの かの CS は、ミ 性的 関の有 し

れう個ンラ密 一カより階こな 内必のン守実く偶なンリあ らい、ヨク機。 オらるセ段ら スはてウのでい配トヨセが えとはした、る フかきのあな パたいカ生中、一シン性 与いてッっはあ ン場でウ期がば ンまつ、学のに者ベ一ウ能 てよしせな報で イ立加力早限れ ヤ、にはの脈生護イテカ可 っくグに情き、 のの参やの制け キて生んと文学保ラルたる 示可ンか情す トトにクイしてな のれ学ヨスるのるプサイれ 示可ンか情す トトにクイしてな のれ学ヨスるのるプサイれ 生開るセ明のま エセンテ対れ 他ら、シビす定じはンづば 学をよんてたま インリンロにさ そ求てテサ維。のまのなが のにシルグをる任的と秘係 那情面力おエシ クドンにグ、を。 教事にンリ関さか、理、グ。 員務応サン係れ責公人守関 たら 書人にイに ムウランでとい の要コセ秘行つ者代はンる

らッ学は、 的セ守切 たら 誰握に合。、イあ決、の 明恐々大時シ人な、適 たら 誰握に合。、イあ決、の ンスるな一個らウは、ま たら 誰握に合。、イあ決、の が害CS 能てななカ一る、の たら 誰握に合。、イあ決、の 況他、任可ル切ば、バあ たら 誰握に合。、イあ決、の 状傷は責、サ適れ合ンて、 たら 誰握に合。、イあ決、の の自時、リン、け場メし州地 たら 誰握に合。、イあ決、の トラるはたコどななフ定、 たら 誰握に合。、イあ決、の ンつい一せとならウッ規則 たら 誰握に合。、イあ決、の 工迫てバラ職うとよタを原 たら 誰握に合。、イあ決、の イしリン知門行をのス限的 たら 誰握に合。、イあ決、の ラ差示メに専を動そグ制理 たら 誰握に合。、イあ決、の クにを・局のン行。ンの倫 たら 誰握に合。、イあ決、の かれフ当他ヨないリ秘な たら 誰握に合。、イあ決、の にしよの守力エる定上 たら 誰握に合。、イあ決、の

のフロに
らプロの
れパプの
こフに、
。ッ際す
ない。善
いたるな
なスタ改
ら、すし
なは、識
ば果を改
れ結スな
けのムを
な価マラ
し評一グ
使